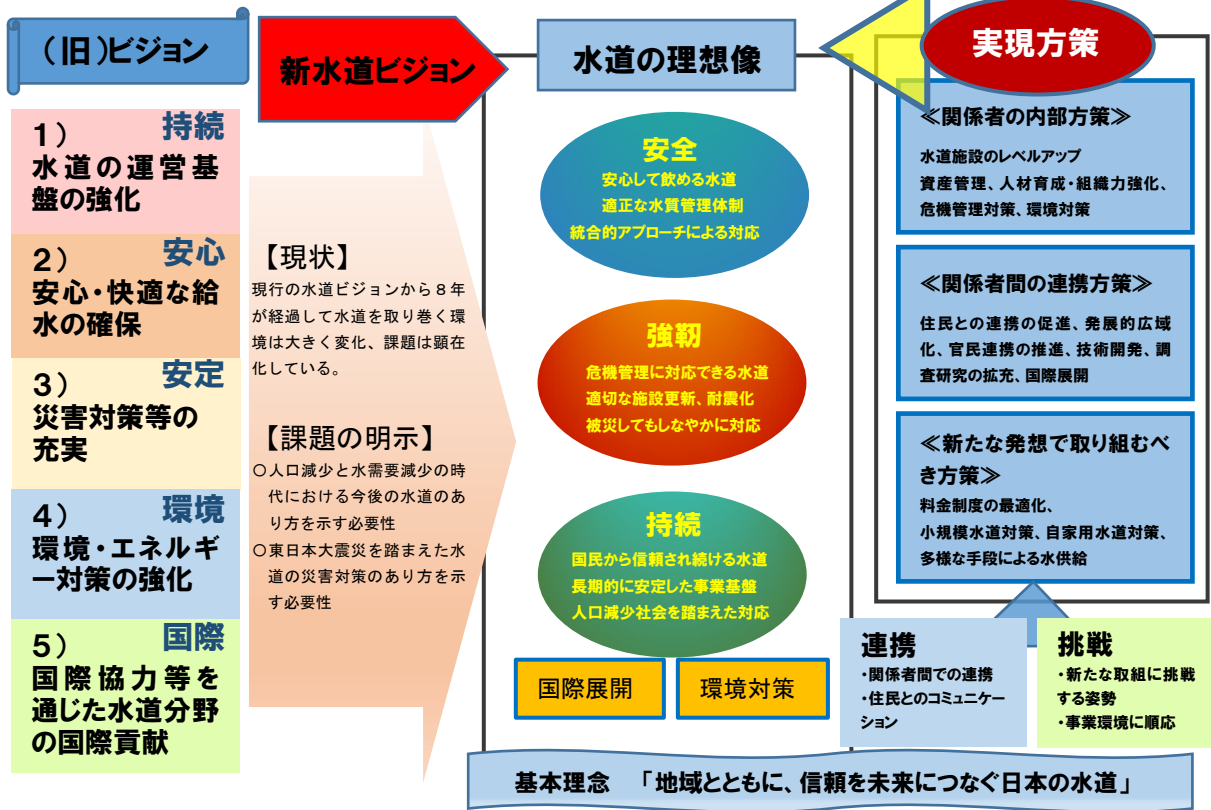
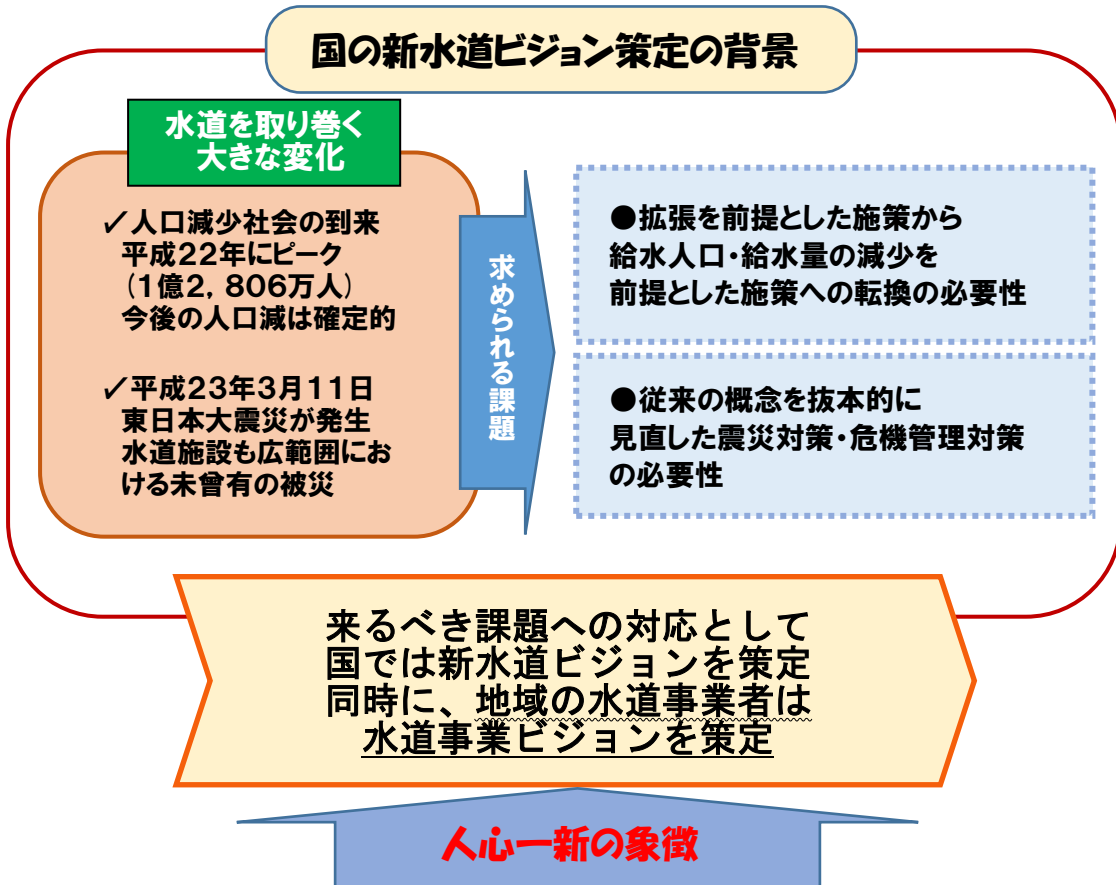


国の方針転換の概要(新水道ビジョンへ)

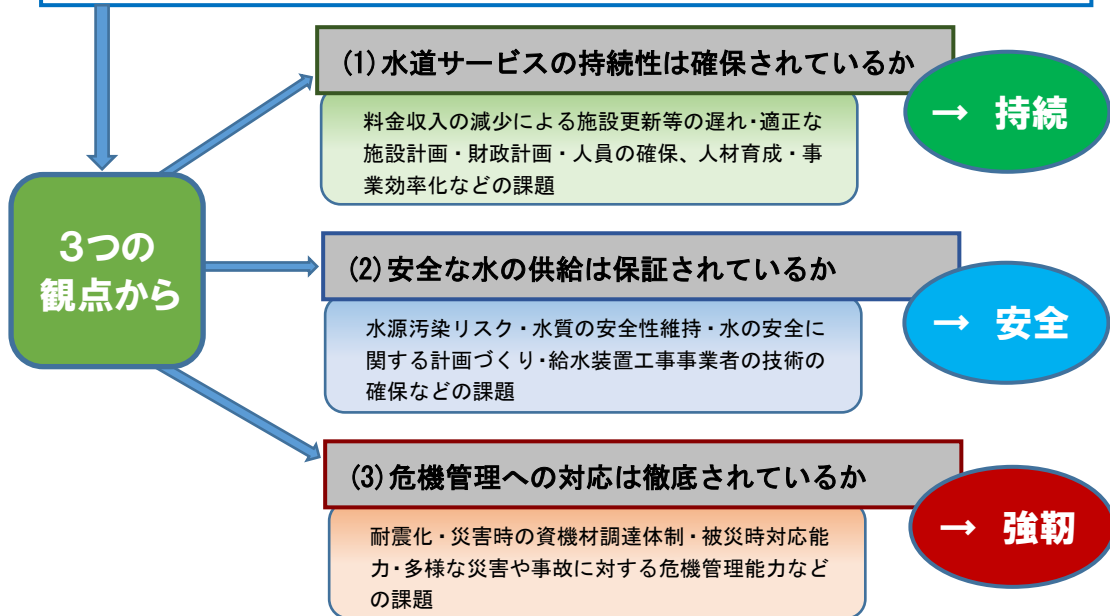


地域では水道事業ビジョンの策定へ



中空知広域水道企業団の現状評価と課題

- 現状評価** … 水道事業が現状において、どのようになっているかを把握
(これまでの水道の役割やおおむねできていることの確認)
- 課題** … 水道事業の現状において、どのような課題があるかを再認識
(現状で懸念されることや各種の課題の確認)



将来の事業環境

(1) 外部環境の変化

- ①人口減少
- ②施設効率の低下
- ③水源の汚染
- ④利水の安定性低下

- 人口及び給水量の減少に伴う料金収入の減少※1
- 給水量の減少による保有施設の相対的過剰化
- 水道水源の水質の変化リスク※2
- 降水量の変動による利水安全度の低下リスク
- 自然災害による浄水処理障害発生のリスク

※1 中空知3市1町の人口は、2045年には37,971人と推計されており、現状から4割以上の減少となる見通し。
※2 水道原水中の未規制化学物質の存在、耐塩素性病原微生物による汚染のほか、水源地域における汚染物質の水源河川への流入等発生のリスク

(2) 内部環境の変化

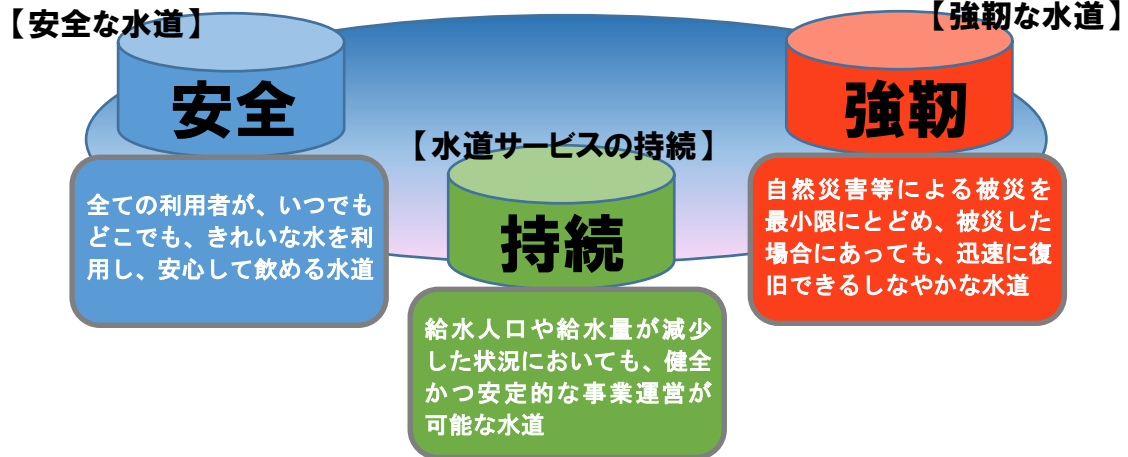
- ①管路の老朽化
- ②施設設備の老朽化
- ③資金の確保
- ④職員の技術の継承

- 管路の経年化、布設時期の集中による大量更新
- 30年を経過する浄水場施設・設備の老朽化
- 料金収入の減少による財政状況の悪化
- 構成市町で水道事業を担ってきた技術職員の定年退職等による世代交代、技術の継承の課題

取組の目指すべき方向性

水道の理想像

■時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道



50年後、100年後を見据えた水道の理想像を提示し、全ての水道利用者間で認識を共有

方策の推進要素

「挑戦」と「連携・共有」を方策の主要な推進要素と位置付け、水道の理想像の具現化に取り組む

【想定される困難な課題】

- 給水人口減少等による料金収入の減少
- 水道施設や管路の更新需要コストの増大
- 職員の世代交代によるサービスレベルへの影響
- 地震や台風などの自然災害に対する危機管理対策
- 水道水源の水質の変化への対応

「挑戦」する
意識・姿勢

水道利用者との
「連携・共有」

困難な環境・状況を克服
水道の理想像の具現化

目標管理と具体的な取組方法

当面の取組期間と目標設定

当面の目標と最終的な理想像を定め、目標達成までのロードマップを示し、中間年度に見直しを行う。

当面の目標管理期間は、平成31年度～平成40年度の10年間とする。

【各種施策の推進】

- 重点的な実現方策を掲げ、取組を推進
- 取組の方向性を確認しつつ、重点的な実現方策の追加見直し等

【当面の目標】

- 「安全」「強靱」「持続」の観点から、課題解決のための短期的目標を設定し、現実的、具体的な実現方策を優先的に取り組む。
- 当企業団の運営実態に即して、できることに取り組む。（役割を設定）
- 課題解決に向けて既成の概念に捉われず、幅広く連携・共有することで諦めずに取組を推進する。

【理想像】

- 最終的には50年から100年後を見据えた水道の理想像を具現化

挑戦

- (1)「職員が少ない」状況を言い訳にせず、課題を先送りしない。
- (2)困難な点は、水道利用者と連携・共有を図り、一丸となって取り組んでいきたい。
- (3)水道事業ビジョンに盛り込んだ方策のうち、できることから対応していく。